

2012年度 建設マネジメント委員会 研究成果発表会及び表彰式

報告書

運営小委員会

1. 目的

土木学会 建設マネジメント委員会（委員長：小澤 一雅）では、5つの特別小委員会と、15の研究小委員会を設け、建設マネジメントに関する研究を行っている。これらの研究成果の普及に資することを目的とし、2011年度の特別小委員会及び研究小委員会の活動から、次表に示すテーマに関して発表会を開催した。

2. 概要

研究成果発表会の開催日時と発表プログラムは下表のとおりである。

日 時：平成24年8月9日（木）13：00～17：50

場 所：（社）土木学会 講堂

表 建設マネジメント委員会 研究成果発表会（2012年度）発表プログラム

時間	発表テーマ	発表担当研究小委員会
13：00～13：10	開会の挨拶	建設マネジメント委員会：小澤一雅 委員長
■表彰式		
13：10～14：00	表彰式	
14：00～14：15	休憩	
■研究小委員会の部		
14：15～14：55	インフラ関連事業への適切なPFI/PPP導入に向けて－わが国PFI事業におけるベストパートナーシップガイドラインの作成を中心に－	インフラPFI・PPP研究小委員会 小委員長：宮本和明（東京都市大学） 発表者：渡会英明（建設技術研究所）
14：55～15：25	意識調査によるリスク管理型土地利用の適用可能性に関する検討	環境修復事業マネジメント研究小委員会 小委員長：下池季樹（国際環境リサーチ） 発表者：田中宏幸（株式会社鴻池組）
15：25～15：45	土木技術者のための原価管理 2011年改訂版発刊によせて	原価管理研究小委員会 小委員長：松岡数憲（株式会社フジタ） 発表者：松岡数憲（株式会社フジタ）
15：45～16：00	休憩	
16：00～16：20	技術公務員の「役割と責務」および「育成と評価」に関する研究	技術公務員の評価・育成に関する研究小委員会 小委員長：野口好夫（名古屋工業大学） 発表者：野口好夫（名古屋工業大学）
16：20～16：50	地方都市におけるサステイナブルなまちづくりに関する実証的研究－ハイブリッド型コンパクトシティ建設と地域マネジメントセンター（RMC）－	地域マネジメント研究小委員会 小委員長：春名攻（立命館大学） 発表者：春名攻（立命館大学） 発表者：山田幸一郎（CAP）
16：50～17：20	「失敗の本質」と海外土木事業とプロジェクトマネジメント	新しいビジネスモデル研究小委員会 小委員長：中山等（鹿島建設） 発表者：中山等（鹿島建設）
17：20～17：40	CM業務の評価に関する検討－リスクによる評価－	実践的CM研究小委員会 小委員長：山本幸司（名古屋工業大学） 発表者：重松英造（建設技術研究所） 発表者：鈴木顕彰（前田建設工業）
17：40～17：50	閉会の挨拶	運営小委員会：堀田昌英 小委員長

3. 参加状況

成果発表会の参加状況としては、100名が参加し、昨年に比べて減少したものの、概ね例年通りの参加者数であった。

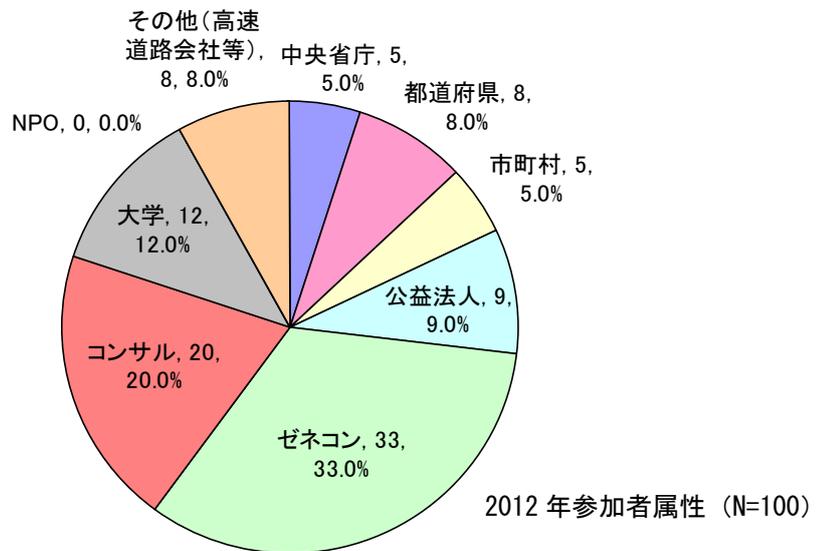
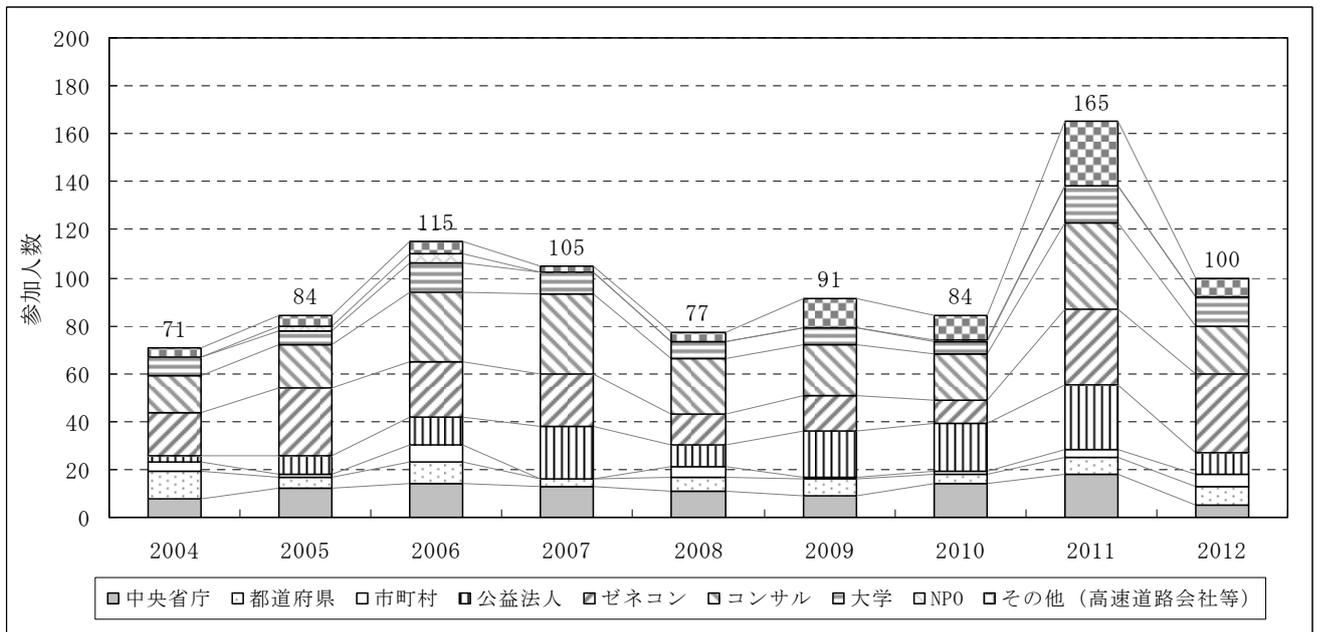
参加者の内訳としては、ゼネコンが33名、コンサルタントが20名と多く、次いで大学が12名、公益法人9名となっており、民間企業からの関心が高かったものと考えられる。



—発表会場の様子—

<参加状況>

区分	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年
中央省庁	8	12	14	13	11	9	14	18	5
都道府県	11	5	9	3	6	7	4	7	8
市町村	4	1	7	0	4	1	1	3	5
公益法人	3	8	12	22	9	19	20	27	9
ゼネコン	18	28	23	22	13	15	10	32	33
コンサル	15	18	29	33	23	21	19	36	20
大学	8	6	12	9	7	7	5	15	12
NPO	0	2	4	0	0	0	1	0	0
その他（高速道路会社等）	4	4	5	3	4	12	10	27	8
合計	71	84	115	105	77	91	84	165	100



*) 参加名簿より作成

4. 発表会に向けた取り組み等について

(1) 発表会に向けた取り組み

- ・ 本年度の表彰式では、表彰小委員会において選定された論文表彰1件、グッド・プラクティス賞2件、優秀講演賞8件を受賞した。
- ・ 本年度の成果発表会では、研究小委員会の成果発表として7つの発表を行った。
- ・ 過年度と同様に、本年度も会場参加者へ成果発表会に対するアンケート調査を実施した。(詳細は後述する《研究成果発表会 アンケート調査結果》に掲載)

(2) 発表会を終えて

<参加状況>

- ・ 「3. 参加状況」に示したとおり、参加者が昨年に比べ減少したものの、概ね例年通りの参加者数であった。

<参加者の属性>

- ・ 参加者の年齢構成を見ると、40代～50代が約7割を占めるのに対し、20代は0%、30代は約23%と少ない。建設マネジメント委員会の研究活動を活性化するためにも、若手技術者の参画に向けたPRも重要と考える。

<参加者の印象>

- ・ アンケート調査結果によれば、『大変参考になった』又は『参考になった』との回答が、約7割を占めており、概ね参加者には好評であったと考えられる。
- ・ 発表時間の長さについては、『ちょうどよかった』と回答された方が約78%と多く、妥当な発表時間であったと考えられる。

(3) 今後の方向性

- ・ 研究発表会を知ったツールとしては、建マネ委員会のホームページ、案内状が多かった。また、その他意見を見ると、会社内の連絡やメールという回答が多かった。参加者を増やすためには、「建マネ委員会ホームページを閲覧してもらうための工夫(リンク設定等)」や、「関係会社への社内連絡の徹底」など、更なる工夫が必要と考える。
- ・ 発表内容についても、一般論的な内容に終始せず、具体的な事例を極力引用するなどの意見が見られる。来年度に向けて、各委員会へフィードバックし、本調査結果を有効活用していく必要がある。

5. 表彰受賞者一覧

(1) 論文賞

論文名	執筆者
地方公共工事における総合評価方式の特性と入札・契約制度改革に関する一考察	大分県：二宮 仁志 高知工科大学：渡邊 法美



二宮仁志氏

(2) グッド・プラクティス賞

取り組みの名称	取り組み実施者	発表行事
子どもを対象とした 住民参加による公園づくり	品川区 防災まちづくり事業部公園課	建設マネジメント問題に 関する研究発表・討論会
「現場の教科書」の作成 ～未来への持続的な土木技術 継承のために～	栃木県魅力ある 建設事業推進協議会	栃木県建設技術協会 建設マネジメント問題に 関する研究発表・討論会



安間氏



齋藤氏

(3) 優秀講演賞

発表名	発表者	発表行事
道路斜面防災マネジメントにおける事業優先度評価手法に関する研究	関口信康 (パシフィックコンサルタンツ株)	建設マネジメント問題に関する研究発表・討論会
地域協働型道路施設管理を目指した仕組みづくりと人づくりのあり方に関する研究	大野沙知子 (岐阜大学大学院)	同上
滋賀県湖南市における都市整備プロジェクト構想に関する研究	西田拓也 (立命館大学大学院)	同上
PFI道路事業におけるリスクの連鎖性を考慮した計量分析	上田友翔 (東京都市大学大学院)	同上
子どもを対象とした住民参加による公園づくりの事例報告 —品川区鮫洲運動公園を例として—	小川晋 (品川区)	同上
発注者支援型CM方式におけるCMR等の役割について	多田寛 (国土技術政策総合研究所)	同上
フィリピン及びベトナムにおける円借款事業の契約条件の運用実態調査	松葉保孝 (東京大学大学院)	同上
継承されるべき土木の現場技術とは何か —栃木県のマニュアルについて—	松本茂 (栃木県)	同上



関口信康氏



大野沙知子氏



西田拓也氏



上田友翔氏



小川晋氏



多田寛氏



松葉保孝氏（代理：田辺氏）

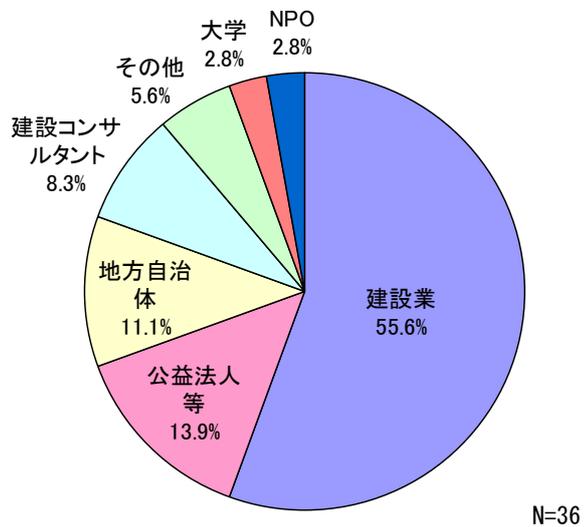


松本茂氏

6. 研究成果発表会アンケート調査結果

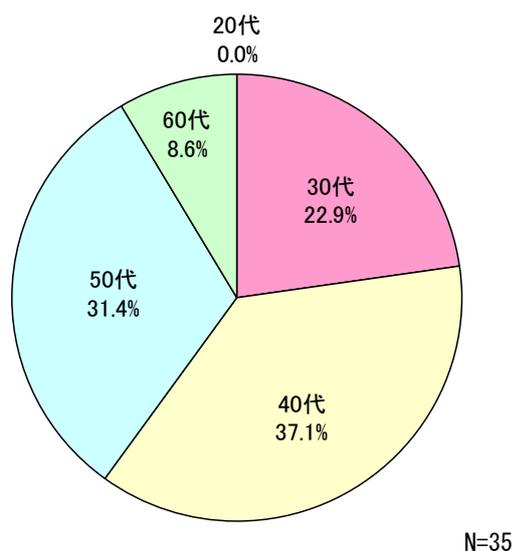
(1) 回答者の所属構成

- アンケート回答者の属性は、「建設業」が約 56%と最も多く、次いで「公益法人等」が約 14%、「地方自治体」が約 11%となっている。



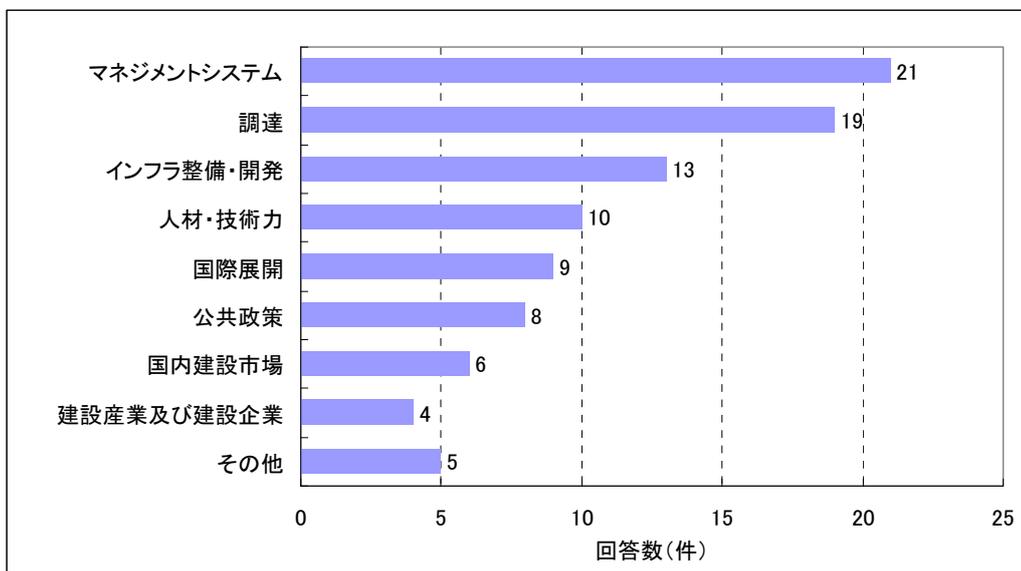
(2) 回答者の年齢構成

- アンケート回答者の年齢は、「50代」が約 31%と最も多く、次いで「40代」が約 37%、「30代」が約 23%となっている。



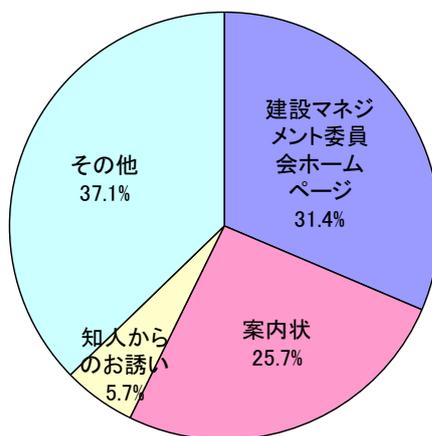
(3) 興味ある研究分野

- 興味ある研究分野としては、「マネジメントシステム」が最も多く 21 件、次いで「調達」が 19 件、「インフラ整備・開発」が 13 件となっている。



(4) 開催を知ったツール

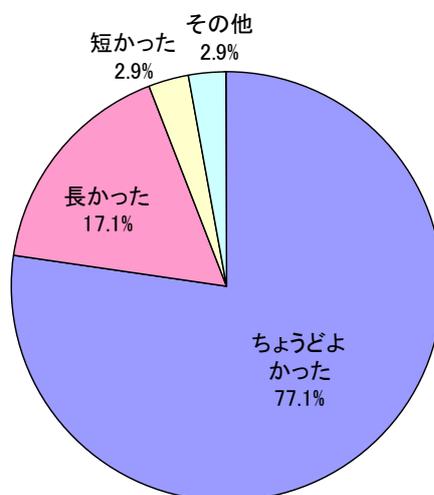
- 発表会を知ったツールとしては、「建設マネジメント委員会ホームページ」が約 31%と最も多く、次いで「案内状」が約 26%、「知人からのお誘い」が 6%となっている。
- 「その他」の内訳を見ると、「会社からの連絡・メール」が 6 件あった。



N=35

(5) 発表時間の長さ

- 発表時間の長さは、「ちょうどよかった」が約 77%、「長かった」が約 17%となっている。



N=35

(6) 参考になった発表

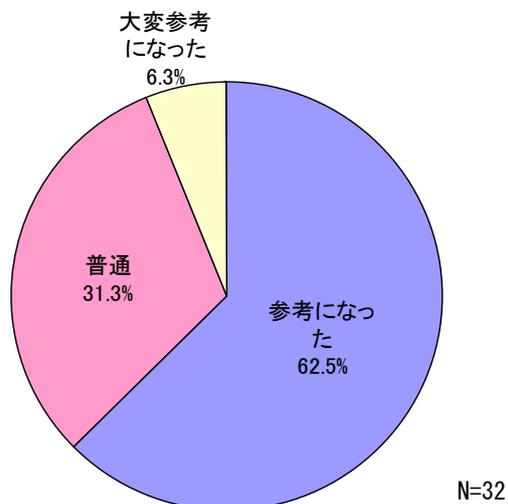
- 参考になった発表としては、「失敗の本質と海外土木事業とプロジェクトマネジメント」、「CM 業務の評価に関する検討」、「インフラ関連事業への適切な PFI/PPP 導入に向けて」が上位 3 位を占めていた。

<上位 3 位>

- | | |
|----------------------------------|-----------|
| ・「失敗と本質」と海外土木事業とプロジェクトマネジメント | 14 件 |
| ・ CM業務の評価に関する検討 | 14 件 |
| ・ インフラ関連事業への適切な PFI / PPP 導入に向けて | 13 件 |
| | 69 件 (合計) |

(7) 参加した目的の達成度

- 参加した目的を達成したかどうかについては、「大変参考になった」、「参考になった」が合計で約7割を占めていた。



(8) その他意見

- 一般論的な発表内容が多く、現場での課題や失敗から得た教訓を中心に発展した方が有意義ではないか。
- 企業や研究など、様々なフィールドでの具体的な内容、事例を発表に盛り込んでもらいたい。
- 発表方法・内容（の作り方）にバラツキがあるように感じた。一定の成果を得た研究なのか、継続する研究なのかによっても違うのだろうと思うが、「背景→研究内容→成果→課題」など、一定の項目ごとに発表してもらう方がわかりやすい。
- 発表内容が多岐に渡りすぎている感もあるので絞り込んでもよいのではないか。 等

以上